

会報

NEWS LETTER

様々な社会の変化とこれからの紙リサイクルを考えていし。



Topics

長谷川理事長インタビュー 「紙リサイクルのこれから」

- 令和4年度 事業計画及び収支予算
- 全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト 2021 審査結果



公益財団法人 古紙再生促進センター

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

目次

P 2 特 集

長谷川理事長 インタビュー

P 4 理事会報告

令和4年度 事業計画および収支予算

P 10 活動報告 本部

全国小中学生
“紙リサイクル”コンテスト2021

P 22 統 計

数字でわかる！古紙の世界

P 24 お知らせ

オンラインセミナー

P 26 センター日誌





特 集

長谷川理事長

2024年、センター創立50周年を迎えるにあたり、
センターのこれまでの取り組み、古紙を取り巻く現在の環境、
これからの50年に向けての取り組みを語る。

1 2024年にセンター創立50周年を迎えるにあたって、改めてセンターの取り組みをお伺いします。

1974年の創立来、半世紀弱に亘る歴史を振り返れば、紙ゴミの問題、余剰・不足の需給問題等々、時代時代の懸案に対してセンターは真摯に向き合い、解決に向けた様々な取り組みを実施してきました。関係行政バックアップのもと、製紙メーカーと原料問屋が共に手を携えて運営している古紙再生促進センターは世界的にも稀な団体でしょう。1億2500万人の人口を擁する我が国で2021年には回収率81%、利用率66%に達していることは称賛に値します。国民のリサイクルに対する意識の高さは勿論、これを支えていただいている紙リサイクルに関わる全ての皆様、そして歴史を積み重ねてこられた業界の諸先輩に改めて敬意を表したいと思います。

2 現在の古紙業界を取り巻く環境はどのようなものでしょうか。

人口構造の変化やデジタル化に加えて、コロナ禍により紙板紙の

需要構造の変化が加速化する一方、世界的にも中国の固体廃棄物輸入禁止や、アジア諸国を中心とする段原紙等の成長加速への対応により国際的な資源循環の枠組みも変化し、我が国の紙リサイクルは大きな転換の渦中にあります。今後もしサイクルシステムの維持に向けては、安定供給と品質の確保が大前提となりますが、古紙は世の中に欠くことのできない「エッセンシャルグッズ」であり、皆様方のお力添えをいただき、SDGsの観点からも持続可能な循環型社会の形成に向けて進んでいかねばなりません。

3 これからの50年に向けて、センターの歩む方向を教えてください。

2024年の半世紀の節目を控え、センターは次の時代を見据えた中長期的な課題整理に向けた検討も段階的に始めていきたいと考えています。紙リサイクルも大きな転換期を迎えている中で、次の半世紀に向けて何をすべきなのか、何を目指すべきなのか、社会変化が加速する中でハードルは高いですが、公益的な古紙センターだからこそその大切な使命の一つと考えています。様々な関係者からお話をお聞きし、共に考えるキッカケを作り、最終的に多くの方々と将来像を共有し、中長期的な課題対応を考えるヒントに繋がれば良いと思います。「もっと知ってもらい、もっと活用してもらい」センターを目指してまいりますので引き続きよろしくお願いいたします。



紙リサイクルのこれから

令和4年度 事業計画

当センターは昭和 49 年（1974 年）の創立以来、半世紀弱に亘り、関係者のご協力を得て紙リサイクルの促進に貢献してまいりました。資源である古紙の有効利用や廃棄物の減量化を通して、我が国の持続可能な社会の実現を目指すセンター事業は、「SDGs」という大きな枠組みの中での社会的要請にも応えるものであります。社会・産業構造の変化が加速化する一方、国際的な資源循環の枠組みも変化、我が国の紙リサイクルは大きな転換期の渦中にありますが、変化の時代をチャンスと捉えた事業展開を通じ、行政、製紙業界、古紙業界、回収業界など、様々なステークホルダーの方々との相互理解を深め、一層の紙リサイクル促進に向け努力を重ねてまいります。

事業計画策定の基本スタンス

- 2024 年に創立半世紀の節目を迎えるセンターは、4大事業 ①古紙安定対策 ②広報 ③調査研究 ④紙の資源リサイクル安定化対策 を軸に、古紙を取り巻く構造的変化やウイズコロナにおける事業運営の在り方を追求します。
- 紙リサイクルのステークホルダー（一般家庭・自治体・事業者⇒回収業者⇒問屋・輸出業者⇒製紙会社）の間で、センターは個々の利害を超えた公益性を有する中立的な立ち位置や、個別企業では実現できない対応が強みであることを認識し、事業を遂行します。
- 創立半世紀を控え、中長期的視野に立った諸課題について、紙リサイクルに関わるステークホルダーの皆様と将来像を共有、対応を考える風土、機会づくりを開始します。
- SDGs の取組を本格化、紙リサイクル及びセンター事業との関わりを整理し、ステークホルダーの御意見を伺った上で取り纏め、活動キックオフします。
- 「もっと知ってもらい、もっと活用してもらい」センターを目指し、ステークホルダーとのコミュニケーション強化を通じた持続的な古紙の ①回収・利用の拡大 ②安定供給・確保 ③品質の維持・向上を目指します。

1. 古紙品質安定対策事業

新たに「個別品質対策」では、基礎的な古紙品質情報を必要とする地方自治体等の環境行政担当者や関係団体のニーズを探り、その啓発ツールの提供を検討します。

(1) 古紙品質調査事業

全国の製紙メーカーの協力の下、古紙開梱組成調査を実施します。

(2) 古紙品質情報ネットワークの運用

全国展開した古紙品質情報ネットワークを通じ、製紙工場での品質トラブル情報を他社工場、古紙問屋へ伝達、情報共有化を図ります。

(3) 個別古紙品質対策

4大禁忌品である「昇華転写紙」、「感熱性発泡紙」、「ロウ引き段ボール」、及び「臭いのついた紙」の混入防止等、禁忌品対策を実施します。また、禁忌品見本帳の作成、行政等への配布により、自治体との関係強化にも繋がります。

2. 広報事業

地方自治体職員や未来の紙リサイクル促進を見据えた、小中学生を対象とした啓発や情報発信に努め、対面型・オンライン型のハイブリッド事業により、従来カバーできなかった地域での事業拡大を進めます。

また、2019年度に文部科学大臣賞の新規交付を受けた『全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト』については、応募点数の増加等、さらなる内容の充実を図ります。

(1) 紙リサイクル啓発事業

1) 紙リサイクル研修会

地方自治体等の実状を把握の上、オンラインセミナー形式での実施やセミナー動画の作成による自治体との関係強化に繋がります。

2) 紙リサイクル出前授業

オンライン形式の授業も積極的に拡大、また小中学校向け授業、教材のブラッシュアップを検討、シニア人材の活用による授業提供体制の拡充を図ります。

3) 地域広報活動

コロナ影響を踏まえつつ、各地域にて開催される紙リサイクルイベントへの参加等、紙リサイクルの啓発のための広報活動を実施します。

4) 紙リサイクルセミナー

毎年開催の紙リサイクルセミナーを、10月13日（木）に開催予定。ライブ配信、録画配信を実施、ステークホルダーに広く周知してまいります。

5) 啓発資料等の配布

創立 50 周年に向けてセンター会報のリニューアルを実施、新たに地方自治体担当者を対象としたハンドブックを作成、自治体との関係強化に繋がります。

6) 紙リサイクルコンテスト

14 回目となる「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト 2022」を通じ、作文・ポスターの優秀作品を選定・表彰、応募点数の増加等内容の充実に努めます。

7) 未利用古紙掘り起こし・品質確保等の啓発 他

SDGsと紙リサイクル及びセンター事業との関わりを整理、ステークホルダーの御意見を伺った上で取り纏め、活動本格化します。またジェットロとの提携により海外専門家による定期的なオンラインセミナーを開催します。

(2) 紙リサイクル普及事業

1) 顕彰制度

紙リサイクル推進に貢献されてきた集団回収実施団体に対する顕彰は、コロナ影響を踏まえた対応に努めます。

2) グリーンマーク

古紙利用製品の認識向上及び利用拡大を図るため、グリーンマークの普及に努めます。

3. 調査研究事業

国内では古紙発生構造の変化や、各地方自治体におけるリサイクル変化等につき調査を行い、海外ではアジアとの交流や調査事業についてウイズコロナにおける在り方を検討します。

(1) 国内資源化調査

1) 雑誌・雑がみ・オフィス古紙調査

オフィスや事業所のリサイクル状況につき昨年度調査を元に更に詳細なフィードバックを自治体に行い、関係強化に繋がります。

2) 地方自治体古紙関連施策調査

全市区町村（約 1,700）に対し、紙リサイクル変化等について調査、また新たに紙リサイクル先進自治体を分析、フィードバックに繋がります。

3) 新技術に対応した紙リサイクル促進に関する調査研究

リサイクル性の観点で、環境対応の紙・プラ複合素材を注視していきます。

4) 未利用古紙の回収ネットワーク構築

ウイズコロナにおける、ステークホルダーの実状や課題を調査し、未利用古紙の回収ネットワーク構築を目指します。

5) 外部委員会 他

経済産業省によるインドでの紙リサイクルシステム構築支援事業への参画や、紙製容器、牛乳容器関連協議会への情報提供を行います。

(2) 海外市場調査

国際資源循環の変化に対応し、アジア諸国との古紙をキーワードとしたオンライン交流を検討します。

(3) 統計調査

国内外における古紙需給統計等を収集し取りまとめを行い公表します。

4. 紙の資源リサイクル安定化対策事業

少子高齢化に伴う人口構造変化、都市集中・地方過疎化、デジタル化が進み、また世界的にはサーキュラーエコノミーを始めとした循環経済推進のうねりが高まる中、国内・外の中長期的な課題整理に向けて活動します。

(1) 古紙余剰対策事業

1) 紙リサイクル維持対策（備蓄事業）

紙リサイクルシステム維持のため、余剰が生じた場合の対策を講じます。

(2) 紙の資源リサイクル安定化施策事業

1) 海外調査研究

日本の紙リサイクル安定化のため、世界の循環型経済社会の拡大に伴う紙リサイクルへの影響や、MIX 古紙規制影響等について調査します。

2) リサイクル方法の調査研究

古紙の製紙原料以外の用途に関する調査を実施します。

3) 紙リサイクルの維持

創立 50 周年の節目に向けた中長期的・持続的な紙リサイクルの課題整理の初年度として、広くステークホルダーを対象としたオンラインセミナーを開催、また各地区との意見交換会、関連する調査事業を実施します。

5. その他の事業（地区委員会活動事業）

全国 8 地域における委員会において、各地域の独自性を考慮し、ウイズコロナにおける各地域に応じた研修会等の事業を実施します。

収支予算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位: 円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,000	1,000	0
基本財産受取利息	1,000	1,000	0
特定資産運用益	48,000	48,000	0
運用財産受取利息	48,000	48,000	0
受取会費	228,100,000	223,700,000	4,400,000
賛助会員受取会費	228,100,000	223,700,000	4,400,000
事業収益	136,300,000	136,300,000	0
紙の資源リサイクル安定化対策事業収入	136,300,000	136,300,000	0
受取寄付金	600,000	600,000	0
受取寄付金	600,000	600,000	0
雑収益	300,000	300,000	0
雑収入	300,000	300,000	0
経常収益計	365,349,000	360,949,000	4,400,000
(2) 経常費用			
事業費	340,545,000	333,479,000	7,066,000
役員報酬	20,703,000	23,417,000	△ 2,714,000
給料手当	47,392,000	50,321,000	△ 2,929,000
福利厚生費	10,004,000	10,188,000	△ 184,000
役員賞与引当金繰入額	2,714,000	0	2,714,000
賞与引当金繰入額	3,726,000	0	3,726,000
役員退職慰労引当金繰入額	2,396,000	2,396,000	0
退職給付費用	1,508,000	1,414,000	94,000
古紙購入代金	136,300,000	136,300,000	0
会場費	1,797,000	1,517,000	280,000
資料作成費	9,190,000	3,375,000	5,815,000
啓発活動費	3,370,000	3,956,000	△ 586,000
広告料	0	60,000	△ 60,000
システム費	700,000	800,000	△ 100,000
委託費	44,034,000	36,291,000	7,743,000
会議費	300,000	740,000	△ 440,000
旅費交通費	4,650,000	7,629,000	△ 2,979,000
通信運搬費	4,389,000	4,690,000	△ 301,000
減価償却費	2,450,000	2,657,000	△ 207,000
消耗品費	3,441,000	3,680,000	△ 239,000
印刷製本費	4,123,000	5,855,000	△ 1,732,000
新聞図書費	1,183,000	2,496,000	△ 1,313,000
水道光熱費	1,054,000	1,055,000	△ 1,000
賃借料	25,766,000	25,628,000	138,000
諸会費	454,000	424,000	30,000
諸謝金	1,080,000	750,000	330,000
租税公課	6,000	2,000	4,000
支払手数料	25,000	12,000	13,000
雑費	0	36,000	△ 36,000
地区事業費	7,790,000	7,790,000	0

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増減
管 理 費	33,474,000	32,660,000	814,000
役員報酬	1,800,000	2,036,000	△ 236,000
給料手当	3,962,000	4,523,000	△ 561,000
福利厚生費	1,070,000	1,060,000	10,000
役員賞与引当金繰入額	236,000	0	236,000
賞与引当金繰入額	574,000	0	574,000
役員退職慰労引当金繰入額	208,000	208,000	0
退職給付費用	202,000	194,000	8,000
会場費	93,000	93,000	0
広告料	180,000	100,000	80,000
システム費	3,433,000	1,706,000	1,727,000
委託費	4,384,000	4,384,000	0
会議費	5,553,000	5,753,000	△ 200,000
旅費交通費	1,634,000	2,453,000	△ 819,000
通信運搬費	181,000	196,000	△ 15,000
減価償却費	81,000	101,000	△ 20,000
消耗品費	128,000	152,000	△ 24,000
印刷製本費	12,000	12,000	0
新聞図書費	23,000	23,000	0
水道光熱費	108,000	107,000	1,000
賃借料	2,598,000	2,576,000	22,000
諸会費	1,283,000	1,283,000	0
諸謝金	4,956,000	4,956,000	0
租税公課	43,000	12,000	31,000
支払手数料	428,000	428,000	0
雑費	304,000	304,000	0
経 常 費 用 計	374,019,000	366,139,000	7,880,000
当期経常増減額	△ 8,670,000	△ 5,190,000	△ 3,480,000

2. 経常外増減の部

(1) 経常外収益

経常外収益計	0	0	0
--------	---	---	---

(2) 経常外費用

経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 8,670,000	△ 5,190,000	△ 3,480,000
一般正味財産期首残高	2,476,397,000	2,467,534,000	8,863,000
一般正味財産期末残高	2,467,727,000	2,462,344,000	5,383,000

Ⅱ 指定正味財産増減の部

当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0

Ⅲ 正味財産期末残高	2,467,727,000	2,462,344,000	5,383,000
-------------------	----------------------	----------------------	------------------



全国小中学生 “紙リサイクル”コンテスト 2021 審査結果

「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト」は、全国の小中学生から紙リサイクルに関する活動やアイデアをテーマとした作文・ポスターを募集し、優秀な作品の作成者を表彰するもので、平成21年度から実施し、今回で13回目の開催となりました。全国各地の小中学生から多数の応募をいただき、応募点数は過去最高の3,274点（応募校：220校）となりました。また、長期間継続して応募のある学校を表彰する『学校特別賞』に中学校2校を選出し、表彰しました。

“紙リサイクル”コンテスト 2021 最終審査会の様子

入賞作品の選考は、学校関係者と業界関係者の14名の協議で行われました。右の写真は1月28日に実施された最終審査会の様子です。今年度も子ども達の独創的で豊かな作品の数々に、各人の立場から紙リサイクルに対して白熱した議論が行われました。



最終審査会で選考された文部科学大臣賞や金賞、特別金賞の受賞者に対しては、本来3月5日（土）に東京ガーデンパレスにて表彰式を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら今年度の表彰式は中止とし、各学校で先生から受賞者に表彰状ならびに副賞を授与頂く形で入賞者への表彰を実施することとなりました。昨年に引き続き表彰式を中止することとなり、受賞者の皆様に直接お会いして祝福の言葉を伝えることができないのは残念ですが、受賞者確認の際に受賞者本人や保護者からの喜びのコメントもたくさんいただきました。これらを励みに次年度以降も紙リサイクルの大切さを考えるきっかけとして、当コンテストを継続して実施していきたいと思います。

今年度の紙リサイクルコンテストの入賞者は25名、学校特別賞・奨励賞は計4校となりました。独創的な紙リサイクルに関する活動や紙リサイクルを推進するアイデアを作品にした入賞者と作文・ポスター各部門の優秀作品の一部を紹介します。

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト 2021 入賞者一覧

応募総数：3,274 点（応募校数：220 校）

【文部科学大臣賞】

部 門	都道府県	学校名	学年	氏 名	タイトル
作文部門	宮城県	気仙沼市立松岩中学校	2	佐藤 里桜	リサイクルで仲間の輪
ポスター部門	大阪府	堺市立東三国丘小学校	5	小林 美琴	資源も命のように大切に

【金賞】

部 門	都道府県	学校名	学年	氏 名	タイトル
作文	小学生部門	福岡県 北九州市立足立小学校	6	小田 孝太郎	ワンチームでの挑戦
	中学生部門	山梨県 山梨学院中学校	2	名倉 湧希	世界に届け、 生命とリサイクルの輪
ポスター	小学生部門	鹿児島県 霧島市立天降川小学校	3	野崎 宏太	待ってました
	中学生部門	東京都 文京区立音羽中学校	2	宿谷 艶	ぜひお古紙ください。 持続可能な未来へ…

【特別金賞】

部 門	都道府県	学校名	学年	氏 名	タイトル	
全国製紙原料商工組合 連合会 理事長賞	愛知県	岩倉市立岩倉北 小学校	3	高峰 はるか	わたしの生活の 紙リサイクル	作文
日本再生資源事業協同 組合連合会 会長賞	兵庫県	小林聖心女子 学院中学校	1	山縣 志帆	ひろがれ リサイクルの輪	作文
段ボールリサイクル 協議会 会長賞	北海道	札幌市立真栄 小学校	2	サムソノ 織 美 愛	いざっ！うまれかわり にしっかりわけてね 紙リサイクル	ポスター

【銀賞】

部 門	都道府県	学校名	学年	氏 名	タイトル
作文	小学生部門	福岡県 明治学園小学校	2	能美 にな	できる？できない？ 知ろう！紙リサイクル
	中学生部門	愛知県 東浦町立北部中学校	3	笠松 大輝	祖父の「ある」行動
ポスター	小学生部門	岩手県 北上市立黒沢尻東小学校	1	青木 創志朗	リサイクルでまたあおう！
	中学生部門	宮城県 宮城県立仙台二華中学校	3	小川 怜禾	未来へつなぐ紙リサイクル

【銅賞】

部 門	都道府県	学校名	学年	氏 名	タイトル
作文	小学生部門	大阪府 関西創価小学校	4	細 田 幸	生まれ変わる紙と、 二つの合言葉
		福岡県 明治学園小学校	3	野 入 桃子	雑にあつかわないで！ 雑紙の願いと私達の暮らし
		高知県 高知市立大津小学校	6	高 橋 奏	紙は大切な資源という宝物
	中学生部門	静岡県 静岡市立蒲原中学校	3	久 保 田 華	リサイクルの輪
		静岡県 静岡市立蒲原中学校	3	森 美 温	めんどくさかった…けど。
		静岡県 浜松市立浜名中学校	1	小 梢 蒼 依	「紙リサイクル」で 地球の未来を守る
ポスター	小学生部門	福岡県 福岡市立那珂南小学校	2	浅 井 颯 汰	変身リサイクル！ 紙のヒーロー
		福岡県 福岡市立那珂南小学校	3	押 方 茉 希	牛乳パックをリサイクル して作ったエコバック
		東京都 武蔵村山市立雷塚小学校	5	大 平 華 鈴	つなげよう！広げよう！ 紙リサイクル
	中学生部門	神奈川県 川崎市立高津中学校	1	上 野 文 菜	「繋ぐ」
		佐賀県 佐賀県立武雄青陵中学校	2	野 中 夏 希	まわそう、 リサイクルのサイクル
		宮城県 仙台市立南光台中学校	2	半 澤 美 海	楽しみをくりかえす。

【学校特別賞受賞校】

区 分	都道府県	学校名	継続応募年数
中学校	山口県	岩国市立灘中学校	6年
中学校	高知県	日高村佐川町学校組合立加茂中学校	6年

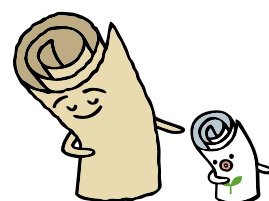
【学校奨励賞受賞校】

部 門	都道府県	学校名	応募点数
小学校部門	兵庫県	神戸市立霞ヶ丘小学校	189点
中学校部門	福島県	白河市立白河中央中学校	437点

第13回目となった2021年度は全国から

3,274点 もの応募がありました。

応募いただいた児童・生徒の皆様、学校の先生方、保護者の
皆様、ご応募いただき誠にありがとうございました。



文部科学大臣賞 作文部門

リサイクルで仲間の輪

気仙沼市立松岩中学校2年 佐藤 里桜

「リサイクルのために四月から回収した紙が六百四十キロになったよ。」

職場から帰ってきた父はそう言って、ダンボール箱を姉と私に見せた。六百四十キロの実感がわかない私達に父は「この箱にコピー用紙がいっぱい入って二十キロだから、六百四十キロはこの箱三十二箱だよ。」と告げた。私はすごい量だなと驚くと共にここまでの活動を思い出していた。

去年、私と姉は市の広報誌でリサイクルの取り組みについて調べ、自分達にできる方法を考え、実践してみた。「リサイクルできる紙はお宝」を合言葉に、学校から配布されたプリントは個人情報情報を切り取り、菓子箱はきれいにたたんで仕分けし、たまるときに集積所に運んだ。家庭での燃えるごみが減ったと母は喜び、私もずっしりと重い「雑誌」を運ぶたびに「地球に優しい活動」を実感できうれしくなった。

この活動をもっと多くの人に知ってもらい、一緒に活動したいと姉が父の職場で行うことを提案した。父は職場の上司と相談し、紙資源の回収を始めた。「どうすれば多くの人に参加してもらえるのか。」と考え、私達はポスターを作成し、父の職場に貼ってもらった。「菓子箱をリサイクル、十歩動けばごみから資源へ」このポスターを見て、ゴミ箱に入れていた菓子箱をリサイクルボックスに運んでくれる人や家庭から様々な「雑紙」を持ってくる人も増えたそう。また、父に「この紙もリサイクルでいい

ですか。」と、聞く人もいて、一緒に活動してくれる人が増えていることが実感でき、「リサイクルの輪」がどんどん広がることがとてもうれしく、自分への励みとなった。

ある日、父がこんな話をした。いつも家庭から「雑紙」を持ってくる女性が「私が持ってきた紙を見られると、私のプライバシーが丸見えですよ。」と話していたと…。私は、「あっ」と思った。私達が用意した雑紙の回収ボックスは入れやすく、取り出しやすいようにとふたのない大きな袋だったのだ。持ってきてくれる人の気持ちに寄りそった方法ではなかったと反省し、姉と相談してふたがあり、中身が見えないようにリサイクルボックスを工夫してみた。

これらの経験から、多くの人と一緒に活動するためには相手の立場に立って気持ちを考えたり、自分から積極的に動いて声掛けすることが大切だと思った。今、姉と一緒に紙資源のリサイクルをする必要性や六百四十キロもの資源が集まったことと、そのことに感謝する気持ちをまとめたパンフレットを作成している。このパンフレットを多くの人が見て、リサイクルの必要性や活動の充実感や楽しさを知ってもらいたいと思う。そして、一緒に活動する仲間の輪をもっと広げていけたらと考えている。

文部科学大臣賞 ポスター部門

資源も命のように大切に

堺市立東三国丘小学校 5年 小林 美琴



金賞 作文小学生部門

ワンチームでの挑戦

北九州市立足立小学校 6年 小田 孝太郎

「紙はゴミじゃない!!」を合言葉に、全国で紙のリサイクルの授業をしている先生の本を、クラスみんなで読む機会がありました。

紙はリサイクルされていることは、もちろん知っていました。しかし、正直わが家では、

当たり前のように燃えるゴミ袋の中へ、バンバン捨てていました。「もったいない」が口ぐせの母でさえ、冷蔵庫の開閉やエアコンの温度、水道の蛇口の閉め忘れなどには厳しいが、紙を捨てることには何も言いません。それどころか、母自身も、ぼくの学校からの手紙や自分の雑誌など、読み終えて必要がなければ、燃えるゴミ袋へとどんどん捨てていました。ぼくは、今回全国で紙のリサイクルの授業をしている先生の本を読んで、すごく反省しました。今すぐにも、紙のリサイクルをやらなければという使命感もわいてきました。それで、家族がそろった夜ごはんの時、「我が家でも、紙のリサイクルで、できることを考えて、やってみようよ。」と声をかけました。すると母が、「恥ずかしいことしよったんよね。分かってはいたけれど面倒くさくて、ついゴミ袋に入れてしまって。リサイクルに大賛成。」と言ってくれました。この日を機に、我が家はワンチームとなり、紙のリサイクルに取り組み始めました。名付けて「紙ミッション」です。

ミッションその一は、面倒くさがりやの我が家のメンバー。燃えるゴミ袋の真横に「紙はこちらへ」と貼ったカゴを用意しました。カゴいっ

ぱいにたまると、回収ボックスがある市民センターに順番に持っていくように当番表も作成しました。市民センターの職員の方に、リサイクルできる紙でも分別して出さないといけない理由や、禁忌品といってリサイクルできない紙もあることを教わりました。紙のリサイクルも奥深いと実感しました。

ミッションその二は、こうして紙のリサイクルに取り組み始めて知ったことを伝えることです。ぼくは、「家庭新聞」を発行することにしました。その新聞には、市民センターの職員から教わったことや、さらにインターネットや本で調べた、紙のリサイクルの流れや、紙のリサイクルをすることで、現在の循環型社会の形成に大きく役立っている理由などの記事を徐々に掲載していっています。この「家庭新聞」を見た担任の先生から、学校でも、全校児童に発信したらとすすめられて「環境新聞」を発行することになりました。紙のリサイクルのクイズなども取り入れることで、とても好評で継続していく予定です。

紙のリサイクルを始めたことで、家族の会話が増えてきました。ぼくは、これからもより一層、紙のリサイクルのことを知り、学び、体験することで、自分にもできることを見つけていきたいです。そして今後も家族ワンチームで取り組んでいきたいと思います。

金賞 作文中学生部門

世界に届け、生命とリサイクルの輪

山梨学院中学校2年 名倉 湧希

「新聞と広告はしっかり分けなくちゃ。あと、雑誌もね。きれいにして渡さないよ。」独り言を言いながら、古新聞や広告を束ねている祖母。七十歳になった祖母は、見た目こそ若いですが、今はできることが少ない。会話はリピートが多く、最近では不思議な行動や格好も増えてきた。でも、手先はしっかりしていて、この仕分け作業だけは、感心するほど完成度が高い。束ね方にも祖母らしい几帳面さがにじみ出ている。古雑誌やチラシなのに、まるで新品色紙のグラデーションのように整えられている。結束紐も紙製というこだわりぶりだ。毎週、祖母宅にお弁当を届けるかわら、整えられたその束を庭先まで運ぶのが僕の仕事。はじめのうちは、「なぜわざわざこんなことをするのだろう。読み終えたら捨ててしまえば早いのに。」と不思議だった。でも、ある時遭遇した古紙回収業者さんから、「いつもきれいにし出してくれてありがとう。」と満面の笑みで声をかけられトイレットペーパーを渡されたことがきっかけで、この理由を自分なりに考えるようになった。

最初の疑問は「ありがとう」だった。古紙を家の前まで回収に来てくれて、かつお礼の言葉。普通逆のような気がするがなぜなのか。古雑誌は、祖母宅ではその役目を終えたが、この業者さんにとっては、少なくとも大事なもので、事業において必要な原料の一つになっているのではないかと僕は考えた。その後、保健の授業でリサイクルについて学び、古紙も再生可能であ

ることを知った。祖父母との生活が長かった僕は、ものを大事にする姿を間近でみてきた。でも、古雑誌の仕分けもその一つだと分かったのは最近になってからだ。

数年前の夏休みに旅行で訪れたパラオ。世界遺産に登録された美しい海が自慢のこの国には、日本の海辺にありがちな、空き缶やペットボトルは、一つも落ちていなかった。ガイドさんが、このことをとても自慢していたのが、今でも印象に残っている。パラオでは、ペットボトルや缶に税金がかけられていて、使用後指定場所へ持っていくことで換金される仕組みになっているそう。また、パラオでは、古紙が堆肥にリサイクルされていることも教えてもらった。いずれも素晴らしいシステムだ。紙が肥料になる一想像を超えていた。ティッシュもメモ用紙も何気なく使い、捨てている自分が恥ずかしくなった。パラオの美しい海は、小さな国の多くの取り組みによって守られていた。古紙から生まれた堆肥で食物が育ち、それを僕らが摂取する。途切れることなくつながっていく輪、命の輪ともいえるリサイクルの輪が世界中に浸透していけば、地球の美しい自然と環境は永遠に守られていくのではないかと。パラオの美しい自然がそれを期待しているような気がした。

先日祖父にパラオのリサイクルの話をした。

「俺の畑も、古紙で野菜が育つ日が来るかもしれないな。」

祖父母も僕もそうなる日を願っている。

金賞 ポスター小学生部門

待ってました

霧島市立天降川小学校3年 野崎 宏太



金賞 ポスター中学生部門

ぜひお古紙ください。持続可能な未来へ…

文京区立音羽中学校 2年 宿谷 艶



全国製紙原料商工組合連合会 理事長賞

わたしの生活の紙リサイクル

岩倉市立岩倉北小学校 3年 高峰 はるか

わたしの家では紙を大切にしています。

わたしの家族は、お父さん、お母さん、ひいおばあちゃん、おじいちゃん、おばあちゃんの6人家族です。お父さんはたん身ふにんです。

わたしは学校からプリントをもらってきてお母さんに見せます。そうしたら、お母さんはプリントがあるかいないかをはんだんします。

とっておくひつようがないプリントの中で、画面にいんさつされている物は、わたしが紙しげん入れに入れます。名前や住所などのこ人じょうほうが書かれている物は、わたしがスタンプでぬりつぶしてから入れます。

いらないプリントでうらが白い紙は、電話の横におきます。新聞といっしょに来るうらが白い広こくもおきます。うらが白い紙はおばあちゃんが買い物メモに使います。紙が大きくて、字が大きく書けるのでおばあちゃんやおじいちゃんは見やすいようです。わたしもたまにその紙を遊びやべん強に使います。新がたコロナウイルス感せんしょう予ぼうの体温をはかった後、ほけん室の先生からくばられた体温を書く表が見当たらない時に、おぼえておくために書きます。うらが白い紙は気がるに使えるべんりです。使った後はその紙も紙しげん入れに入れます。

ひいおばあちゃんは、いつも市の広ほうで古紙回しゅうの日を調べておぼえています。ひいおばあちゃんは紙しげん入れがいっぱいになる

と、紙をまとめひもでしばります。古紙回しゅうに出すじゅんびです。おじいちゃんは家のうらの公園で、月に1回、古紙回しゅうのボランティアをしています。地いきの人が古新聞や読み終わったざっしなど紙しげんを出しに来ます。

お父さんはたん身ふにん先から家に帰ってくる時に、家族におかしのおみやげを買ってきてくれます。おみやげは家族みんなで食べます。お父さんのおみやげのおかしはおいしいです。おかしのほうそう紙や、おかしのはこは、平らにして紙しげん入れに入れます。すてきなががついていたり、工作に使えるような形だったりすると、たなに入れてとっておきます。

わたしの通っている小学校のクラスには、紙リサイクルボックスがあります。先生があまったプリントや、図工で使ったのこりの紙を集めています。クラスで出たダンボールは、

リサイクルそうこに集めます。お父さんやお母さんのしょく場でも、ダンボールや紙を出す場所が決まっているそうです。

家、学校、地いき、しょく場に紙をリサイクルするためのきまりがあることを知りました。わたしは知らないうちにきまりにしたがい、紙をリサイクルしていたことに気がつきました。わたしは、紙のリサイクルのきまりをみんなでまもって生活していきます。

日本再生資源事業協同組合連合会 会長賞

ひろがれリサイクルの輪

小林聖心女子学院中学校1年 山縣 志帆

日本人はきれい好きが多いと聞く。自分の家にダンボールや新聞・雑誌が山積みになっていると、気になって今すぐ捨てたくなるのではないかな？

私の地域では紙・布回収日は月に2回。新聞や広告は毎日届くうえ、お菓子の空き箱や空封筒、その他メモ紙など、雑紙と言われる資源ごみを月2回の収集日まで、つまり2週間溜めておくと相当な量になる。家に紙資源がたまると、たえきれなくなり「これくらいなら」と、雑紙などを週2回収集される可燃ごみと一緒に出す人もいるのではないかな。これは問題だ。家庭からの可燃ごみは主に生ごみで、これには水分が含まれているため燃えにくい。そこでプラスチックなどの燃えやすいものを加えて燃やすと二酸化炭素の排出量が増えてしまう。また、お隣に住むお年寄りの家庭では、2週間分の溜まった新聞をゴミステーションまで運ぶのが大変そうだ。私は何度か、運びましょうか？とお声がけをしたことがあるが、「大丈夫よ。」と、ご遠慮された。リサイクルを広く浸透させるためには、若い人からお年寄りまで全員が無理なく取り組めるようにする必要がある。

そこで、実際私が小学生の頃に参加していた地域の子ども会における取り組みをみてみよう。子ども会は月に1回、古紙回収リサイクル日を地域の方にも案内し、規定の月2回の回収日以外にもリサイクルしてもらうよう呼びかけている。また、年に2回、公園掃除のリサイクル日を地域の方にも案内し、規定の月2回の回

収日以外にもリサイクルしてもらうよう呼びかけている。また、年に2回、公園掃除を実施した時に、自宅にある古紙や古着を持ち寄る活動も行っている。更に、子どもの参加者は地域の方にご協力を頂くために、回収日を明記した年間カレンダーのお手紙を各家庭のポストに入れて配るお手伝いもしている。

これらの取り組みに影響を受けた自治会も自治会主体で、古紙・古着リサイクル回収の呼びかけを月に1度の頻度で始めた。この結果、私たちの地域では、通常回収が月に2回子ども会回収が1回、自治会回収が1回と合計4回、つまり毎週古紙・布リサイクルが可能になった。1週間分の新聞や雑誌であれば軽く幼稚園児でもお手伝いができ、お年寄りも苦勞なくゴミステーションへ運べる。

私の住む地域の良い点は2つある。1つ目は子ども会や自治会を通してリサイクルができること2つ目はお年寄りや小さな子どもも取り組みやすいことだ。

地域の枠組みの中で子どもの頃からリサイクルに取り組む良い文化が生まれていく。そして、幼い時からこのような活動に参加することにより、リサイクルへの考え方が習慣化され、リサイクルへの意識や関心が高まる。それが将来地球の環境に対して思いやりのあるやさしい生活を送る大人になることにつながっていくのだ。

段ボールリサイクル協議会 会長賞

いざっ！ うまれかわりに
しっかりわけてね 紙リサイクル

札幌市立真栄小学校2年 サムソノー 織美愛





／ 数字でわかる！ ／

古紙の世界

古紙の回収量・消費量・輸入量・輸出量の推移

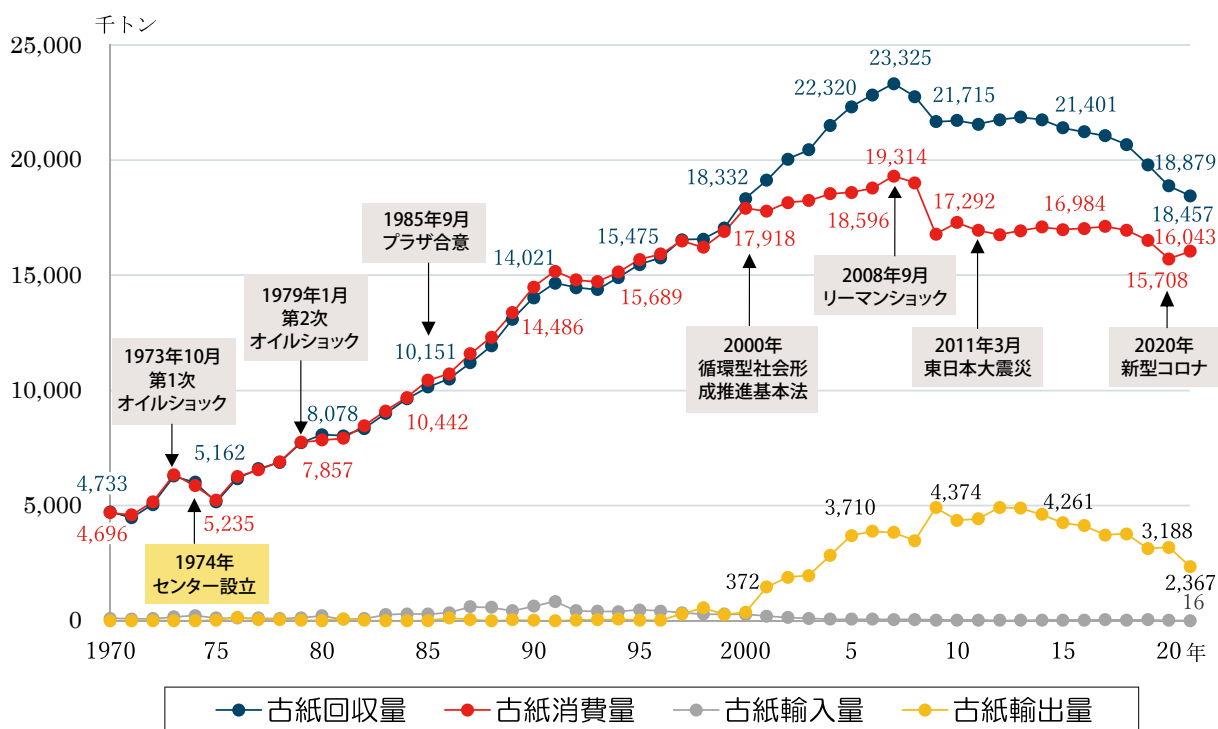
紙リサイクルの歴史

日本では、古紙は製紙原料として古くから利用されてきました。記録によれば、奈良時代に使用済みの紙をリサイクルして使用していたと言われています。

1970年の国民一人当たりの紙・板紙消費量は121.2kgでしたが、高度経済成長を経て大量生産・大量消費社会が進むにしたがってその消費量も増加し、2000年には国民一人当たりの紙・板紙消費量は250.1kgに達しました。このような紙・板紙の需要の伸びに合わせて、戦後まもなく廃品回収業者による古紙回収が行われるようになりました。その後、紙・板紙製品別の原料利用に合わせて新聞・段ボール・雑誌などに分別して古紙が回収されるようになりました。

1980年代に入ると、環境保護と資源リサイクルに対する意識が高まり全国的な古紙回収システムの整備を後押ししました。また、全国の自治体がごみの減量という観点から資源回収に着手し始めたのもこの頃です。この背景には焼却に伴うダイオキシン問題や埋立処分場の延命などがあります。2000年頃から古紙回収量が消費量を上回り古紙余剰問題が発生しましたが、紙の消費量が急速に伸びてきた中国を中心にアジア諸国への古紙輸出が増加し始め、現在も古紙回収量と古紙利用量の差異を輸出に充てています。

紙リサイクルは日本の文化の一つとして定着し、古紙は紙・板紙の原料として必需品となっています。昨今のデジタル化や少子高齢化などの社会構造の変化により、紙の消費量が減少傾向にある中で、長年にわたって培われてきた紙リサイクルの文化を将来につないでいく必要があります。

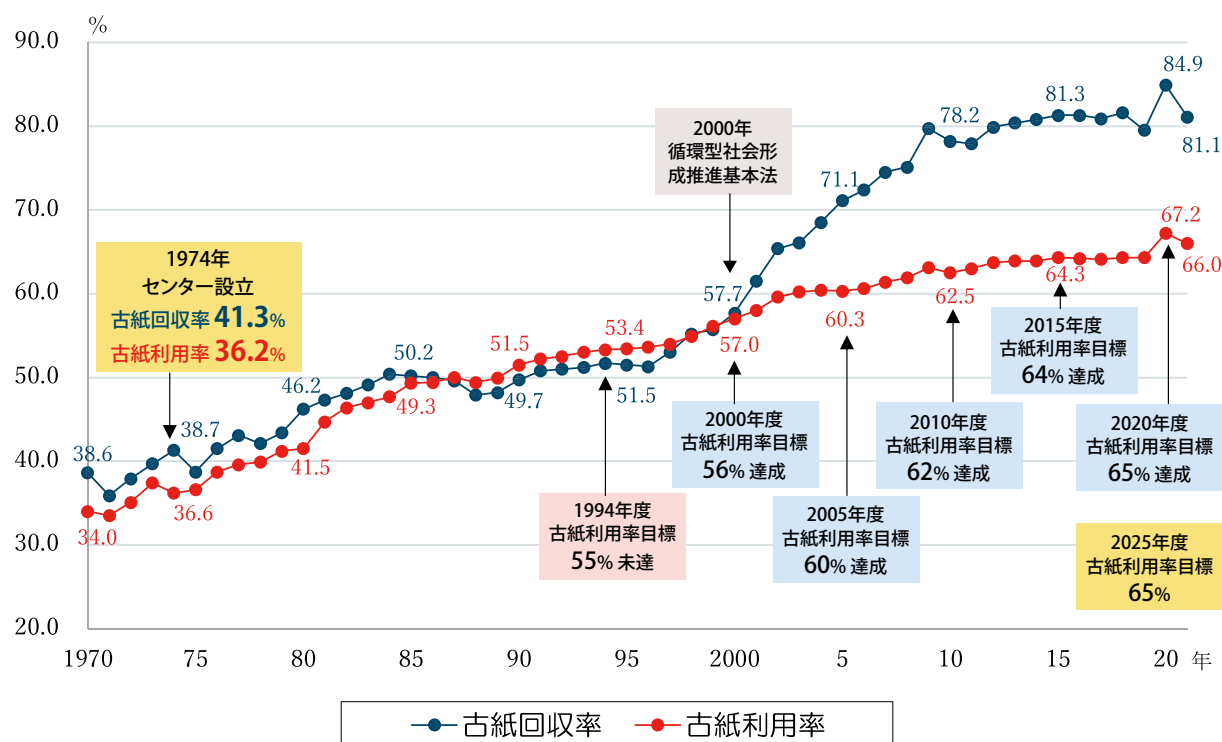


古紙の回収率・利用率の推移

2000年に①廃棄物等の発生抑制、②資源の循環的な利用、③適正に処分される事によって天然資源の消費を抑制し環境への負荷低減される循環型社会の実現を目指すものとして、「循環型社会形成推進基本法」が制定されました。また、同年「容器包装リサイクル法」（1995年制定）が施行され、翌年には「再生資源の利用の促進に関する法律」が見直された「資源有効利用促進法」（1991年制定）が施行されました。

法律制定後、自治体は資源回収をより一層拡大し、1970年の古紙回収率は38.6%でしたが、2021年には81.1%に達し、古紙利用率は製紙原料の66%を占めるまでになりました。この古紙回収率・利用率の増加は自治体の排出ルールに従って、家庭で古紙の種類ごとに分別する一人ひとりの行動によって支えられています。

しかし、全ての古紙が紙リサイクルで生まれ変わっているわけではありません。古紙回収率が80%を超えても、可燃ごみの中にはまだ製紙原料として利用可能な紙類が含まれています。これらの紙を「**雑がみ**」として回収していくことで、古紙回収率・利用率をより向上させることができます。しかし、雑がみの特徴として異物の混入が多いことが挙げられます。リサイクルできない異物を取り除くことが、操業トラブルや不良品発生を防ぐ効果的な手段となります。古紙をリサイクルする上で異物除去が必要であることや分別の重要性を家庭に周知し、理解してもらうことが重要です。



古紙回収率

81.1%

古紙利用率

66.0%



紙リサイクルの社会課題と未来が見える 「オンラインセミナーシリーズ2022開催」



Beyond 2024・中長期的課題整理に向けて

古紙再生促進センターは1974年の創以来、国民のリサイクルに対する意識の高さや、紙リサイクルに関わる全ての皆様のご支援の下、紙ゴミ問題、古紙余剰・不足の需給問題等々、時代ごとの懸案に対して真摯に向き合い、解決に向けた様々な取り組みを実施してきました。

一方、人口構造の変化やデジタル化に加えて、コロナ禍により紙板紙の需要構造の変化が加速化する中、国際的な資源循環の枠組みも変化し、我が国の紙リサイクルは大きな転換期の渦中にあります。このような状況下、2024年に創立半世紀の節目を控える当センターは、次の時代を見据えた中長期的な課題整理に向けた検討も段階的に始めてまいります。

紙リサイクルは次の半世紀に向けて何をすべきなのか、何を目指すべきなのか、まずは2022年より、紙リサイクルへの影響が予想される今後の「社会動向・メガトレンド」をキーワードとしたオンライン・オープンセミナーシリーズを開催し、多くの方々と将来像を共有、それぞれの立場で将来の紙リサイクルの課題を考えることができるようなきっかけづくりを目指してまいります。

2024年・創立50周年に向けた古紙再生促進センターの取組イメージ

2022年
フェーズ1

- ・「メガトレンド」をキーワードとした「オンラインセミナーシリーズ」開催予定
- ・各地区を始め、ステークホルダーとの個別意見交換
- ・紙リサイクル中長期的課題の洗い出し、共通ビジョンのたたき台づくり
- ・関連調査研究事業による課題整理、ビジョンづくりの補強

2023年
フェーズ2

- ・「紙リサイクル」をキーワードとした「オンラインセミナーシリーズ」開催
- ・紙リサイクル中長期的課題、共通ビジョンのブラッシュアップ
- ・各地区はじめ、ステークホルダーとの個別意見交換
- ・有識者を交えた意見交換会、総仕上げ

2024年
フェーズ3

- ・センター創立50年、中長期的課題
- ・ビジョン情報発信・全国的なシンポジウム
- ・継続的な意見交換を目指した、ステークホルダーとのパネル設置

第1回 オンラインセミナー

01

配信開始 2022年3月14日

セミナータイトル 「人口減少・成熟社会のデザイン」

講師 ひろい よしのり
広井 良典 氏

京都大学こころの未来研究センター
教授

第2回 オンラインセミナー

02

配信開始 2022年4月15日

セミナータイトル 「リサイクルの国際化と古紙」

講師 こじま みちかず
小島 道一 氏

アジア経済研究所新領域研究センター
上席主任調査研究員

いつでも、どこでも、だれでも、自由に参加(無料)

紙リサイクルの社会課題と未来が見える オンラインセミナー

Online Seminar

主催・公益財団法人 古紙再生促進センター



古紙再生促進センターは
2024年に創立50周年を迎えます

人口構造の変化、地方過疎化、デジタル化、未曾有のコロナ禍、国際的な資源循環の枠組みの変化など、国内外のさまざまな要因による影響を受け、日本の紙リサイクルは大きな転換期を迎えています。そんな中、これからどんな課題が待ち受け、どのように解決していけばいいのか？ 公益財団法人 古紙再生促進センターでは、今後の社会変化に適応した持続可能な紙リサイクルの在り方や課題についての中長期的な共通認識作りを目指し、2022年のオープンセミナーシリーズをオンラインにて開催します。

大きな影響が予想される今後の社会・経済動向「メガトレンド」を共通キーワードに、第1弾は日本社会と国際社会それぞれに視点を置いたセミナーを実施。紙リサイクルに関わるさまざまな立場の方たちが直面するであろう社会的な課題を前提に、想定される未来像と現状とのギャップの把握、それを元にした課題整理と解決につながるヒントを、専門家と一緒に探っていきましょう。

シリーズ
第1弾

紙リサイクルの社会課題と未来が見えるオンラインセミナー 「日本と国際社会の現状、そして未来」



-Theme 1-

2022年3月14日(月)より公開予定

人口減少・成熟社会のデザイン

広井 良典 氏

京都大学こころの未来研究
センター教授



1961年岡山市生まれ。東京大学教養学部卒業、同大学院修士課程修了後、厚生省勤務、千葉大学法政経済学部教授を経て2016年より現職。この間2001~02年MIT(マサチューセッツ工科大学)客員研究員。専攻は公共政策および科学哲学。『日本の社会保障』(岩波新書)でエコノミスト賞、『コミュニティを問ひなおす』(ちくま新書)で大佛次郎論壇賞受賞。他に『ポスト資本主義』(岩波新書)、『人口減少社会のデザイン』(東洋経済新報社)など著書多数。この間、教育再生懇談会委員、国土交通省・国土審議会専門委員、環境省・次期生物多様性国家戦略研究会委員、経済産業省・地域の持続可能な発展に向けた政策の在り方研究会委員、内閣府・選択する未来2.0懇談会委員などを務める。

-Theme 2-

2022年4月15日(金)より公開予定

リサイクルの国際化と古紙

小島 道一 氏

アジア経済研究所新領域研究
センター上席主任調査研究員



1965年生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業、カリフォルニア大学バークレー校農業経済・資源経済学科修士号取得。1990年アジア経済研究所入所。一橋大学などで非常勤講師を務める。2018年4月から2020年9月まで、インドネシア・ジャカルタの東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)に出向。専攻：環境経済学、資源経済学。著書に『アジアにおける循環資源貿易』『アジアにおけるリサイクル』『国際リサイクルをめぐる制度変容』『国際リユースと発展途上国』(編著)、『国際協力ってなんだろう』(分担執筆)、『リサイクルと世界経済 - 貿易と環境保護は両立できるか』(中公新書)など。



紙リサイクルのメガトレンドをキーワードにしたオンラインオープンセミナーは2022年に続けて第2弾、第3弾も実施予定。紙リサイクルに関わる皆さんにとって関連の深いさまざまなテーマを広くご案内してまいります。



古紙再生促進センター メガトレンド・オープンセミナー事務局

E-mail : gyomu@piif-prpc.com

古紙再生促進センター

検索



視聴参加は
こちらから!!

理事会報告

活動報告

統計

計

お知らせ

センター日誌

令和3年度 センター日誌

1～2月分（2月分）

月	日	会 議 名	主 要 議 題
1月	20日 (木)	近畿地区委員会 (Web会議 システム併用)	① 古紙の需給・市況動向について ② 検収委員会報告 ③ その他 ・今後の近畿地区委員会等の開催予定
	25日 (火)	静岡地区委員会 (Web会議 システム併用)	① 古紙の需給・市況動向、品質状況について ② 紙リサイクル出前授業の実施報告及び今後の計画について ③ 集団回収実施団体への感謝状贈呈について ④ 令和4年度事業計画について ○広報事業（案） ・雑がみ回収用袋製作（4月） ・静岡県工業技術研究所フェア参加（8月5日（金）） ・富士山紙フェア出展（2月） ○地区事業（案） ・委員情報・意見交換会（5月21日（土）） ・講演会、委員懇話会（8月23日（火）） ・委員研修会（10月20日（木）～22日（土）） ・委員懇話会（1月24日（火）） ⑤ その他 ・今後の静岡地区委員会等の開催予定
		中・四国地区委員会 (Web会議 システム併用)	① 古紙の需給・市況動向について ② 古紙の品質トラブル報告 ③ 広島地区における紙リサイクル啓蒙活動について地元放送局で紹介され、他地区でも参考にする予定
	26日 (水)	関東地区委員会 (Web会議 システム併用)	① 古紙需給動向（古紙問屋） ② 古紙及び製品需給動向（製紙会社） ③ 古紙品質トラブル報告 ④ 段ボール、新聞、雑誌の2021年10月～12月消費実績、2022年1月～6月消費計画 ⑤ 中長期的・持続可能な紙リサイクルに向けた課題整理 ⑥ （進捗報告）来年度（2022年度）以降の輸出委員会運営・賛助会費について ⑦ その他 ○尿素水「AdBlue（アドブルー）」について ○集団回収感謝状贈呈式について ○全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2021 ・応募結果について：3,274点（過去最多） ・一次審査会（1月7日（金）実施）、最終審査会（1月28日（金））を行い、受賞作品を決定 ○紙リサイクル出前授業 2月9日（水）柏市立増尾西小学校 ○今後の関東地区委員会等の開催予定

月	日	会議名	主要議題
1月	27日 (木)	1 月度常任理事会	① 通常理事会の開催日時及び議案について ② コロナ禍における集団回収実施団体への感謝状の贈呈に係る運用について(2022年版) ③ 「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2021」の応募結果について *当初、令和4年3月5日(土)に予定していた表彰式はコロナ禍の状況を鑑み中止に決定 ④ “紙リサイクル”コンテスト2021 学校特別賞・学校奨励賞について ⑤ LCA(ライフ・サイクル・アセスメント)への取組 ⑥ 経理規程の改正について(案) ⑦ 令和3年度第8回業務委員会議事次第について ⑧ その他 ・今後のスケジュールについて
		第8回業務委員会 (Web会議 システム併用)	① 各地区の古紙需給・市況動向について ② 2022年1月～6月の段ボール・新聞・雑誌の消費計画について ③ 「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2021」の応募結果について ④ その他 ・今後の業務委員会等の開催予定
2月	10日 (木)	九州地区委員会 (Web会議 システム併用)	① 古紙の需給・市況動向について ② 古紙の品質について ③ 「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2021」の応募結果について ④ 北九州市小学生対象紙リサイクルバスツアー中止報告 ⑤ 令和3年度研修会中止の報告 ⑥ 海外関連トピックスについて ⑦ 第2回国際海上コンテナ輸送の需給逼迫問題に関する情報共有化傍聴報告 ⑧ 令和4年度九州地区行事予定(案) ⑨ 令和4年度集団回収実施団体への感謝状贈呈について
	15日 (火)	北海道地区委員会 (Web会議 システム併用)	① 中長期的・持続可能な紙リサイクルに向けた課題整理 ② (進捗報告)(2022年度)以降の輸出委員会運営・賛助会費について ③ 古紙共販集計表について ④ 古紙需給動向について ⑤ 古紙消費実績と計画対比表について ⑥ 令和4年1月～6月における古紙消費計画について ⑦ 北海道商組の古紙仕入・出荷・在庫量調査表について ⑧ 古紙消費量、在庫量推移グラフ ⑨ 情報交換 ⑩ その他 ・令和4年度組合古紙共販事業について ・その他

月	日	会 議 名	主 要 議 題
2月	18日 (金)	財務委員会	①令和4年度事業計画(案)について ②令和4年度収支予算(案)について ③特定費用準備資金取扱規則制定の件 ④その他
		中部地区委員会 東海分会 (Web会議 システム併用)	①古紙の需給・市況動向について ②令和4年度集団回収実施団体への感謝状贈呈について ③紙リサイクル出前授業副読本について ④古紙品質調査の件 ⑤その他 ・今後の地区委員会等の開催予定
	25日 (金)	関東地区委員会 (Web会議 システム併用)	①古紙需給動向(古紙問屋) ②古紙及び製品需給動向(製紙会社) ③古紙品質トラブル報告 ④全国小中学生「紙リサイクル」コンテスト2021 ・審査結果について ・当初3月5日(土)に予定していた表彰式、懇親会は中止 ⑤その他 ○2022年度からの輸出委員会・賛助会費について ○今後の関東地区委員会等の開催予定
		近畿地区委員会 (Web会議 システム併用)	①古紙の需給・市況動向について ②検収委員会報告 ③その他 ・今後の近畿地区委員会等の開催予定
	28日 (月)	2月度常任理事会	①令和4年度事業計画(案)について ②令和4年度収支予算(案)について ③令和4年度の収支予算における賛助会費の公益目的事業への充当について(案) ④特定費用準備資金取扱規則の制定について ⑤「全国小中学生「紙リサイクル」コンテスト2021」の審査結果について ⑥「プラスチック資源循環促進法」に対する製紙業界の対応について ⑦令和3年度第9回業務委員会議事次第について ⑧その他 ・今後のスケジュールについて
		第9回業務委員会 (Web会議 システム併用)	①各地区の古紙需給・市況動向について ②コロナ禍における集団回収実施団体への感謝状の贈呈に係る運用について(2022年版) ③「全国小中学生「紙リサイクル」コンテスト2021」の審査結果について ④LCA(ライフ・サイクル・アセスメント)への取組 ⑤その他 ・古紙再生促進センター50周年記念ロゴマークについて ・今後の業務委員会等の開催予定

編集後記

本号は初めてとなる会報の大幅なデザインのリニューアルを行いました。少子高齢化やデジタル化などの社会構造の変化に伴い、紙リサイクルが大転換期にある中で、センターの事業内容や広報活動をよりわかりやすく皆様にお伝えしていきます。

さて、本号では平成21年度にスタートし、今回で13回目の開催となる全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2021の審査結果について掲載しました。今年度の応募点数は過去最大の3,274点（応募校：220校）となりました。受賞作品のうち、文部科学大臣賞・金賞・特別金賞に輝いた9作品を掲載しています。どの作品も紙リサイクルへの強いメッセージを込めた作品となっていますのでぜひご覧ください。

来年度も応募点数・応募校数の更なる増加に努めて参りますので、お力添えいただけますよう関係者の皆様をお願い申し上げます。

（武田）

地区委員会事務局

地 区	郵便番号	所 在 地	電話番号	FAX 番号
北 海 道	060-0002	札幌市中央区北二条西2丁目 リージェントビル5階	011 (271) 1551	011 (232) 0017
東 北	980-6003	仙台市青葉区中央4-6-1 住友生命仙台中央ビル3階 日本紙パルプ商事（株）北日本支社内	022 (225) 3359	022 (261) 4522
関 東	104-0042	東京都中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4階	03 (3537) 6822	03 (3537) 6823
静 岡	417-0801	富士市大淵2590番1号 静岡県富士工業技術支援センター内	0545 (35) 5270	0545 (35) 5026
中 部	450-0002	名古屋市中村区名駅3丁目25番9号 堀内ビル7階	052 (582) 1836	052 (581) 6943
近 畿	541-0052	大阪市中央区安土町1丁目7番13号 トヤマビル7階 日本製紙連合会関西支部内	06 (6262) 6315	06 (6262) 6316
中・四国	799-0492	四国中央市三島紙屋町2番60号 大王製紙（株）内	0896 (23) 9124	0896 (23) 4411
九 州	812-0011	福岡市博多区博多駅前4丁目13番27号 グランドハイツ博多314号	092 (292) 5381	092 (292) 5382

会報

news
LETTER

第48巻 第2号
2022年4月16日

発行所

公益財団法人 古紙再生促進センター

〒104-0042 東京中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4F

電話 03 (3537) 6822 (代表)

ホームページ <http://www.prpc.or.jp>

発行人 川上 正智

印刷所 日本印刷株式会社

リサイクル適性[®]

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

古紙再生促進センターは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています



公益財団法人 古紙再生促進センター

